

第1回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会 議事録（要旨）

日 時： 令和5年10月25日(水) 午後7時～午後8時30分

場 所： 山田錦の館 会議室

出席者：

構 成 員	岩崎 正勝	吉川地区区長協議会
	澤井 正一	吉川地区区長協議会
	小畑 富隆	吉川地区区長協議会
	北角 昌敬	吉川地区区長協議会
	森下 顕	吉川町まちづくり協議会
	谷郷 祐次	吉川町まちづくり協議会
	白木 拓真	吉川町まちづくり協議会
	山田 知美	よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
	黒田 えりか	よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
	青島 静香	よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
	中上 智貴	よかわ認定こども園・いずみ認定こども園
	阪本 俊治	吉川小学校 PTA
	品脇 直美	吉川小学校 PTA
	福田 亮	吉川中学校 PTA
	藤本 理恵	吉川中学校 PTA
	杉原 千二三	吉川小・中学校学校運営協議会
	長谷川 珠里	吉川小学校 校長
	河原 正則	吉川中学校 校長

事 務 局 大北由美教育長、本岡忠明教育総務部長、  
鍋島健一教育振興部長、武内克朗小中一貫教育推進室長、  
本岡伸朗小中一貫教育推進室主査、  
河賀健太郎小中一貫教育推進室主査

傍聴人の数：5名

（事務局司会）

ただいまから、第1回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会を開会する。開会にあたり、大北由美教育長がご挨拶申し上げます。

（教育長）

日頃は三木市の教育に、そして吉川小学校、吉川中学校の教育推進にご理解とご支援を賜っておりますことを心から感謝を申し上げます。

さて、このたびはこの吉川地域に施設一体型の小中一貫校を設置することになった。

そこで、地域の皆様のご意見を参考にしながら計画を進めてまいりたいと考える。皆様には、委員の役を引き受けていただき、誠に感謝申し上げます。吉川の子どもたちの幸せな9年間をつくるために、本日からお世話になるが、皆様のお考えやお知恵をいただき、素晴らしい学校づくりをめざしてまいりたいので、どうぞよろしくお願ひしたい。

#### <委員の自己紹介>

(事務局司会)

続いて、会長・副会長の選出に移らせていただく。「吉川地域における施設一体型小中一貫校の設置に係る地域協議会設置要綱」に基づき、会長・副会長を選出する。設置要綱第5条第1項に「協議会に会長および副会長を置き、それぞれ委員の互選により定める」とあるが、選出方法についてご意見はあるか。

(委員)

様々なメンバーがいる中で、選定はなかなか難しい。事務局としての提案があれば聞きたい。

(事務局司会)

事務局の方から提案をさせていただくということについて、ご意見はあるか。

(委員)

異議なし。

(事務局司会)

では、事務局から提案をさせていただく。

(事務局)

現在、吉川小学校、吉川中学校においては、中吉川、東吉川、上吉川、みなぎ台の広域にわたる地域のご協力やご支援のもとで、いろいろな教育活動に取り組んでいる。

そのため、会長にはこの地域に対する豊かな知見や俯瞰的な視点をお持ちである区長協議会長様が適任ではないかと考える。

また、本年度から吉川小学校並びに吉川中学校で発足した学校運営協議会では、学校の課題解決に向けた取組の中心的な役割として、まちづくり協議会との連携や協力が非常に重要となってくると考える。

したがって、副会長にはまちづくり協議会の会長様が適任ではないかと考え

る。以上、事務局として提案させていただく。

(事務局司会)

事務局の提案としては、会長に区長協議会会長の岩崎様、副会長にまちづくり協議会会長の森下様という提案をさせていただいた。それについてご意見はあるか。

(委員)

賛成。

異議なし。

(事務局司会)

では、会長に区長協議会会長の岩崎様、副会長にまちづくり協議会会長の森下様に願する。

(会長)

ただいま会長の指名を受けた岩崎です。この吉川地域における施設一体型小中一貫校の設置に係る大変重要な地域協議会の会長ということで、務まるかどうか大変心配しているが、皆さんのご協力、ご指導ご鞭撻により進めていきたいと思うので、よろしく願する。

(副会長)

副会長の指名を受けたまちづくり協議会の森下です。どこまでできるか不安はあるが、皆さんと協力して進めていきたいと思うので、よろしく願する。

(事務局司会)

続いて、事務局から本協議会の進め方の視点や委員の役割、今後の主な予定などについて説明する。

(事務局)

それでは、本協議会の進め方と今後の予定について説明する。

進め方の視点は、児童生徒の将来を見据えて、「地域子どもたちがどんな子どもに育ってほしいのか」、またそのような子どもたちを育ていくためには「どのような学校をめざしていくべきなのか」、そのような視点に立って意見交換を進めたいと考える。

そこで、委員の皆様の役割は、現在、吉川小学校、吉川中学校の取組方針を深化、充実させながら9年間の繋がりを生み出す新たな学校におけるめざすべき子どもの姿や、学校像について、積極的に意見交換を願する。

本協議会で地域や保護者の皆様のご意見や、お考えを十分にお聴きした上で、

日々子どもの指導に当たっている現場の教職員とも意見交換を行っていくとともに、事務局が今まで視察や聴き取りを重ねてきた全国の先進校の様々な事例を参考にしながら、最終的に教育委員会が構想を作成していく予定である。

なお、本協議会の今後の予定は令和6年度末までを目途とし、その後より具体的な内容を検討する開校準備委員会へと移行していく予定である。会議の回数は、これからの協議内容やその進捗状況によって変わってくるが、現時点では6年度末までに6回から7回程度を想定する。

他市の事例では、先進校の視察等も行い委員の皆様が直接、施設一体型の学校を見学するなどの取組もあり、三木市も必要に応じてそのようなことも検討していきたいと考える。

(事務局司会)

ただいまの事務局の説明について、ご質問はあるか。

(委員)

6年度末を目処に、そこから開校準備委員会ということだが、開校の予定は、令和10年から令和11年4月ということか。

(事務局)

開校の時期は、現時点では明確に決まっていない。

ただ、先進地の事例では設置決定から概ね5年から7年というスケジュールで開校するケースが多いため、三木市においてもそのようなスケジュール感に則ってこれから計画を進めたいと考える。

(事務局司会)

それではここから議事に入るため、進行は岩崎会長にお願いする。

(会長)

それでは、引き続いて進めていく。第4の説明事項、「吉川地域における施設一体型小中一貫校の設置に向けて」、事務局説明をお願いする。

#### <事務局説明>

(会長)

それでは、次に第5の講演に移る。

本日お集まりいただいた委員の皆様が一貫校設置に向けた共通認識を持っていただくために、まず「施設一体型小中一貫校の強みと可能性」について、安藤先生にご講演をお願いする。

<安藤准教授 講演>

(会長)

それでは、先ほどの事務局からの説明と安藤先生のご講演に対する質問や現段階での感想も含めて、今から意見交換という形で時間を持つ。

(委員)

特認校制度の導入についての説明を願う。

(事務局)

特認校制度の導入は前向きに検討していきたいと考える。特認校制度は学校選択制の一つであり、従来の通学区域を残したまま、教育委員会が指定する学校へ通学区域に関わらず、市内から通学ができる制度である。小規模になった学校が複式学級解消のために導入するケースが多いが、幅広い多様性が生まれる教育環境を構築する目的もある。

(委員)

特認校制度を活用して、他のエリアから来たいという声が出るような学校になるのであればすごいことだと思う。実際来るかどうかは別として、ひとつの指標として制度の導入を考えてほしい。また、学校の目標として自ら進んで行うなど主体性のある子どもを育てるということになれば、そういった内容のカリキュラムを考えていかなければならない。その視点でも、今後課題として話をする必要があると考える。

(委員)

特認校制度を導入した場合の登校手段について説明を願う。

スクールバスで吉川の新しい小中一貫校に行けるなら、市内から子どもが来るかもしれない。

(委員)

先ほどの講師の方の話で、大阪府能勢町の「ささゆり学園」が人口減少の中で小中一貫校ができたということだが、小中一貫校ができて人口が増えたという事はあったのか。また、施設一体型小中一貫校の設置場所については何か構想はあるか。

(事務局)

能勢町の学校再編によって、町が活性化したかどうかについて調査し報告する。設置場所については、地域の皆様の声を聴きながら検討する。現在事務局としては、まず検討すべき用地の状況や課題を集約し、候補地の選定作業の準備に着

手している。今後、この協議会の中でも議論を重ねていくことになると思う。

(会長)

まずは教育のあるべき姿を描いて、地域コミュニティとの関わり等を考えてから適地の話になると思う。兵庫教育大学附属小学校や中学校、三田学園等の私学にも吉川の子どもたちがたくさん行っていると思うが、それらに負けないような小中一貫校を吉川につくっていかねばという気持ちがある。地元で良い教育を受けられる環境をつくっていくよい機会だと思う。設置場所の話も出たが、時間があるので焦らずに、現状分析や課題の確認等から進めていきたいと考える。

(委員)

知らないことが多く、今日はよい勉強をさせてもらった。

(委員)

これから勉強させていただきたい。

(委員)

地域コミュニティとのふれあいは良いなと考える。ただ、防犯上の課題もあるのでそれを払拭できるような協議ができればと思う。

(委員)

モデル校として市内に最初につくるので、よい学校をつくっていきたい。

(委員)

小中一貫校の内容や子どもへの影響について、これからは見守っていきたい。

(委員)

小中一貫教育は、1年生から9年生と一緒に交流を図りながら生活できるので、これまで中学校の生活に不安だった6年生の立場でも、保護者の立場からしてもメリットがあると感じた。1～9年生の全ての学年にメリットのあるように考えていきたい。

(委員)

これまでは、6年生で卒業、中学1年生で入学といった心の変化を感じる場があったと思うが、小中一貫教育では1年生から9年生まで繋がると、従来6年生で発揮していたリーダーシップが無くなり、5～8年生あたりが活躍する場面が無くなってしまわないかという不安はある。今日の話聞いて小中一貫教育の良いところは知ることができたが、その部分が気になった。

(委員)

授業内容や指導方法は先生方にお任せしたいが、自分の子どもが通う学校になるのであれば、やっぱり子どもが楽しい、毎日行きたいと言ってくれる学校にしたい。

(委員)

この地域で育った人たちはこの地域のことが好きな人が多いので、子どもたちにもそう育ってほしいし、吉川という小さい町から大きい街に出たときに、物怖じせず自分の気持ちを表現できる子どもたちに育ってほしい。小・中学校の縦のつながりがあればうまくいくと思う。

統合や一貫校への再編に対してネガティブな思いを持っている人もいるかもしれないが、それをポジティブに変えていくために私たち代表が考えていけないといけない。入園を待っている方もいる中で、幅広く保護者の意見を聴いていく必要があるのではないかと考える。

また、この話はまちづくりの視点とも繋がってくると思う。例えば、山田錦の館を道の駅にして活性化させようとしているが、この近くにはさざんかの郷や吉川病院もあり、子どもたちには高齢者の方との繋がりも大事にしてもらいたい。

(委員)

小中一貫校をモデル校として吉川につくったとして、実際に子どもたちが良さを実感するには大体10年近くかかると考える。吉川の人口は子どもも減ってきていると思うが、他の学校以上に大胆なことをしてアピールしないと良い結果にならないと思うので、そういったアイデアを出せたらと思う。

(委員)

あまり小中一貫校のことについて知らなかったもので、今日はよい勉強になった。私たち保護者は、子どもたちの幸せな9年間をつくるという事を本当に望んでいるので、それだけはお願したい。

(委員)

東条でも小中一貫校が設置されたが、その東条学園の話をもう少し詳しく聞きたかった。吉川の魅力を活かし、吉川にしかない魅力的な小中一貫校をつくりたい。

できるだけ小学校と中学校が合同でできることを一つ一つ見つけて子どもたちがふれあう機会を増やしてほしい。子どもたちが楽しんで、小学校から中学校に行けるような雰囲気づくりを皆さんとつくっていききたい。

(委員)

我が子も小学校から中学校に上がるときに大きなギャップがあった。東条学園では5、6年生から中間テストや期末テストがあると聞いており、その点でも良い取組だと思うので小中一貫校は非常に楽しみにしている。

実際に東条学園や先進地に行って視察や体験をしてみたい。

(委員)

地域にいろいろな力をお持ちの方もいらっしゃるので、小中一貫校になったらその方たちも巻き込んで一緒に子どもたちが育ってくれたらよいと考える。

(委員)

吉川町の4小学校が今一つになって2年目を迎えたが、子どもたちの様子を見てみると、統合してよかったなと思っていただける部分が増えてきたのではないかなと感じている。

統合の時は、時間的にもなかなかじっくりと相談する機会に恵まれなかったが、この地域協議会やその後の開校準備委員会では、十分に時間をかけていろいろなことを考えていけるなと思っているので、私としてはとても良い計画になっているのではないかと思う。

どこにどんな施設一体型の小中一貫校ができるかということも関心はあるが、現在吉川小学校と中学校がともに行っている小中一貫教育を強く推し進めるようになって2年目を迎えている。小学校と中学校の教員の交流や児童生徒の交流も含め、先ほどご提案いただいたような学校行事をできたらよいと思いますし、できればそのときに地域の皆様にも参加していただいたり、いろいろなアイデアを出していただいたりしたら嬉しいのでよろしく願いしたい。

(委員)

先日、小学6年生も中学生と1年生が一緒になって、「スマホや携帯の使い方」について、学ぶ機会を設けた。また、いくつかの班に分かれて中学校の生活に関する質問をしたり、小中合同のグループでドッジボールをしたりして、交流を深めることができた。今度も更に計画していきたいと考える。

せっかくの機会なので、現在の中学校での取組も紹介していきながら、今後いろいろと検討してご意見いただけたらと思う。

(会長)

それでは最後に森下副会長から、今日の意見と合わせて閉会の言葉をお願いします。

(副会長)

これから小中一貫校ができていく中で、そこで学んだ子どもたちが親になっ



たときに、また自分の子どもを吉川で教育させたいと思えるような学校をつくってほしいという思いがある。

制度のことも大事だが、先生の負担が増えてしまうのは心配。やはり先生が楽しくなければ子どもも楽しくないと思うので、その辺りも気をつけて進めていきたい。

委員の皆さんから熱く貴重な意見を語っていただいたので、今後も引き続きよろしく願います。

(会長)

ではこれで議事を終了とし、事務局に司会をお返しさせていただきます。

(事務局)

本日は様々な意見をいただき、感謝申し上げます。今日いただいた意見を集約しながら、第2回目の協議会は「めざす子ども像」等について共通理解を進めていきたいと考える。次回の開催時期は、今のところは1月の下旬を予定しており、決まったら改めて通知させていただきます。

(事務局司会)

では、本日はこれにて会議を終了とする。

以上